

30. 非結球レタス

・殺菌剤

FRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
M1	(銅水和剤) Zボルドー	散布	-	-	野菜類(キャベツを除く)
	ドイツボルドーA	散布	-	-	野菜類
11	アミスター20フロアブル	散布	収穫7日前まで	4回以内	
49+40	オロンディスウルトラSC	散布	収穫7日前まで	2回以内	
-	(ダゾメット) ガスタード微粒剤 バスアミド微粒剤	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	は種又は定植14日前まで	1回	
M1	キノンドーフロアブル	散布	収穫30日前まで	5回以内	
45+40	ザンプロDMフロアブル	散布	収穫3日前まで	3回以内	
43+40	ジャストフィットフロアブル	灌注	定植前日～定植当日	1回以内	
31	スターナ水和剤	散布	収穫14日前まで	2回以内	
49+11	ゾーバックエンカンティアSE	散布	収穫7日前まで	2回以内	
M5	ダコニール1000	散布	収穫21日前まで	2回以内	
1	トップジンM水和剤	散布	収穫21日前まで	2回以内	
U18	バリダシン液剤5	散布	収穫3日前まで	3回以内	
U17	ピシロックフロアブル	散布	収穫前日まで	3回以内	
29	フロンスイド粉剤	全面土壌混和	は種又は定植前	1回	
NC	マスタピース水和剤	散布	収穫前日まで	-	
21	ランマンフロアブル	散布	収穫3日前まで	3回以内	
40	レーバスフロアブル	散布	収穫7日前まで	3回以内	

・殺菌剤 (参考農薬)

FRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
M1	(銅水和剤) コサイド3000	散布	-	-	野菜類
NC+M1	ジーファイン水和剤	散布	収穫前日まで	-	野菜類(なすを除く)

・殺虫剤

IRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
22	アクセルフロアブル	散布	収穫前日まで	2回以内	
4	アクタラ粒剤5	床土混和	は種前	1回	
		株元散布	育苗期後半		
3	アグロスリン乳剤	散布	収穫7日前まで	2回以内	
4	アドマイヤーフロアブル	散布	収穫7日前まで	2回以内	
6	アニキ乳剤	散布	収穫前日まで	3回以内	
6	アフーム乳剤	散布	収穫3日前まで	3回以内	
4	(ジノテフラン) アルバリン顆粒水溶剤	灌注	定植前日～定植時	1回	
	スタークル顆粒水溶剤				
29	ウララDF	散布	収穫前日まで	2回以内	
11	エスマルクDF	散布	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	野菜類
30	グレーシア乳剤	散布	収穫3日前まで	2回	
-	コナガコンープラス (ロープ状製剤)	支柱を立てロープ状の製剤を対象作物の上部に張り渡す	対象作物の栽培全期間	-	コナガ [®] 、オオタバコガ [®] が加害する農作物等
-	コナガコンープラス	作物の生育に支障のな	対象作物の栽培全期間	-	コナガ [®] 、オオタバコガ [®] 、ヨトウ

IRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
	(ツインチューブ製剤)	い高さに支持棒等を立て支持棒にディスプレイを巻き付け固定し圃場に配置する。			かが加害する農作物等
9	コルト顆粒水和剤	散布	収穫7日前まで	3回以内	
-	コンフューザーV	作物の生育に支障のない高さに支持棒等を立て支持棒にディスプレイを巻き付け固定し圃場に配置する。	対象作物の栽培全期間		野菜類
28+4	ジュリボフロアブル	灌注	育苗期後半～定植当日	1回	
5	スピノエース顆粒水和剤	灌注	定植前まで	1回	
		散布	収穫7日前まで	2回以内	
5	ディアナSC	散布	収穫前日まで	2回以内	
4	トランスフォームフロアブル	散布	収穫前日まで	3回以内	
14	パダンSG水溶剤	散布	収穫14日前まで	2回以内	
28	フェニックス顆粒水和剤	散布	収穫前日まで	2回以内	
UN	プレオフロアブル	散布	収穫7日前まで	2回以内	リーフレタス
28	プレバソフロアブル5	灌注	育苗期後半～定植当日	1回	
28	バリマークSC	灌注	育苗期後半～定植当日	1回	
3	マブリック水和剤20	散布	収穫21日前まで	2回以内	
23	モベントフロアブル	散布	収穫14日前まで	3回以内	
4	モスピラン粒剤	株元散布	定植前日～定植当日	1回	
	モスピラン顆粒水溶剤	散布	収穫7日前まで	1回	
28	ヨーバルフロアブル	灌注	育苗期後半～定植当日	1回	
14	リーフガード顆粒水和剤	散布	収穫14日前まで	2回以内	

- 注1) 使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決められているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。
 注2) 薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「FRACコード」や「IRACコード」を参考にしながら他系統剤とのローテーション使用を心掛ける（「薬剤抵抗性管理」参照）。
 注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。
 注4) 蚕毒・魚毒については、「56. 野菜類の総括注意」も参照する。

病害虫名 (F : 菌類病、B : 細菌病、V : ウイルス病、O : その他の病原体)

病害虫名	防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
根腐病 (F)	定植前	1. 育苗は無病培土を用いる。 2. 発生ほ場では数年間レタス以外の作物（キク科以外）を栽培する。 3. 耐病性品種を利用する場合は、事前に判別品種を用いてほ場のレースを検定し、栽培指針に従って作付けする。 4. 高温期の作型を避ける。	1. 病原菌のレースは、ほ場内の既発生部分に判別品種（パトリオット、コスタリカ4号、晩抽レッドファイヤー）を作付けし、発病程度から判断する（レタス（玉レタス）の別表-1参照）。 2. トラクター等の農業機械は、作業後に洗浄する。
すそ枯病 (F)	定植前	1. 高畦にして排水を良くする。 2. フロンサイド粉剤を10a当り30kg 土壌全面に均一に散布後、土壌と十分混和する。 3. ダコニール1000の1,000倍液を散布する。	1. フロンサイドは降雨直後の処理は行わない。 2. フロンサイドは薬剤が周辺のレタス葉にかからないようにする。 3. 6月～8月収穫のものに発病しやすい。 4. 雨の多い時に多発する傾向がある。
菌核病 (F)	定植後	1. トップジンM水和剤1,500倍液を散布する。	1. 低温で降雨が多い条件で発生が多い。
灰色かび病 (F)	定植後	1. トップジンM水和剤1,500倍液を散布する。	1. 被覆栽培では、資材の除去が遅れると発病が助長される。

病害虫名	防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
べ と 病 (F)	定植前日～ 定植当日	1. ジャストフィットフロアブル 500 倍液をセル成型育苗トレイ 1 箱またはペーパーポット 1 冊当たり 500 ml 灌注する。	1. Q o I 剤に関する注意事項「56. 野菜類の総括注意」参照。 2. 銅水和剤は、薬害発生の恐れがある。炭酸カルシウム水和剤(クレフノン)の 100～200 倍液を加用すると、薬害を軽減することができる。 3. オロンディスウルトラ、ザンプロ、ジャストフィット、レーバスは同一系統の成分が含まれるため、連用しない。
	生育期間	1. ピシロックフロアブル 1,000 倍液、ザンプロDMフロアブル 1,500 倍液、アミスター 20 フロアブル、オロンディスウルトラ SC、ランマンフロアブル、レーバスフロアブルの 2,000 倍液、ゾーベックエンカンティア SE の 4,000 倍液のいずれかを散布する。 [参考農薬] 1. Z ボルドー 500 倍液、又はドイツボルドー A の 500～1,000 倍液を定植後から予防散布する。	
コルキールート病 (B)	定植前	1. 育苗は無病培土を用いる。 2. 発生ほ場では数年間レタス以外の作物(キク科以外)を栽培する。 3. 高温期の作型を避ける。 4. ダゾメット剤(ガスタード微粒剤、バスアミド微粒剤)を 10a 当り 30kg 全面に均一散布し土壌とよく混和する。混和後すみやかにポリマルチ等で 10～14 日間被覆し、2 回以上耕してガス抜きを行う。	1. トラクター等の農業機械は、作業後に洗浄する。
軟腐病 (B)	定植後	1. (1)～(3)の薬剤のいずれかを定植後から予防散布する。 (1)銅剤: Z ボルドー 500 倍液、ドイツボルドー A の 500～1,000 倍液、キノンドーフロアブル 800 倍液。 (2)抗生物質剤: バリダシン液剤 5 の 800 倍液。 (3)オキシロニック酸剤: スターナ水和剤 2,000 倍液。 [参考農薬] 1. ジーファイン水和剤 1,000 倍液、又はコサイド 3000 の 2,000 倍液を散布する。	1. 銅剤は、炭酸カルシウム水和剤(クレフノン) 100～200 倍液を加用すると、薬害を軽減することができる。 2. 土壌の過湿は、軟腐病の発病を助長するので排水対策を行う。 3. バリダシンは、きくにかからないよう注意する(薬害)。 4. マスタピースは生物農薬である(「56. 野菜類の総括注意」参照)。
斑点細菌病 (B)	定植後	1. Z ボルドー 500 倍液、ドイツボルドー A の 500～1,000 倍液、キノンドーフロアブル 800 倍液のいずれかを定植後から予防散布する。 [参考農薬] 1. コサイド 3000 の 2,000 倍液を散布する。	
腐敗病 (B)	定植後	1. (1)～(4)の薬剤のいずれかを定植後から予防散布する。 (1)銅剤: Z ボルドー 500 倍液、ドイツボルドー A の 500～1,000 倍液、キノンドーフロアブル 800 倍液。 (2)抗生物質剤: バリダシン液剤 5 の 800 倍液 (3)オキシロニック酸剤: スターナ水和剤 2,000 倍液。 (4)生物農薬: マスタピース水和剤 1,000 倍液。 [参考農薬] 1. ジーファイン水和剤 1,000 倍液を散布する。	

病害虫名	防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
ネコブ センチュウ ネグサレ センチュウ	定 植 前	1. 土壌線虫の項を参照する。	
ヨトウムシ	育苗期後半 ～定植当日	1. ジュリボフロアブル 200 倍液をセル成型育苗トレイ 1 箱またはペーパーポット 1 冊当たり 500 ml 灌注する。	1. ジュリボは蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。 2. 処理直前、直後の灌水は効果を減ずることがあるので避ける。
	生 育 期 間	[参考農薬] 1. フェニックス顆粒水和剤 2,000 倍液又はスピノエース顆粒水和剤 5,000 倍液を散布する。	1. 6 月、8 月頃の幼虫分散期前を重点に散布する。 2. フェニックス、スピノエースは蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。
ウワバ類	生 育 期 間	1. フェニックス顆粒水和剤 2,000 倍液を散布する。	1. フェニックスは蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。
オオタバコガ	定 植 前 日 ～ 当 日	1. モスピラン粒剤を 1 株当たり 0.5g の割合で苗の株元に散布する。 2. ベリマーク SC の 400 倍液をセル成型育苗トレイ 1 箱またはペーパーポット 1 冊当たり 500 ml 灌注する。	1. モスピランは規定量を均一に散布し、葉に付いた粒剤を培土上に軽く払い落とし、粒剤が育苗箱の外に流れ落ちない程度に軽く散水する。 2. ベリマークは処理直後の灌水は効果を減ずることがあるので避ける。 3. モスピラン、ベリマークは蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。
	定 植 時	1. プレバソンフロアブル 5 の 100 倍液をセル成型育苗トレイ 1 箱またはペーパーポット 1 冊当たり 500 ml 灌注する。	1. プレバソンは蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。 2. 定植後、干ばつ状態が続く場合や乾燥時にマルチ被覆をした場合は効果が劣ることがあるので、定植後に灌水を実施すると効果が安定する。 3. 軟弱徒長苗では葉害を生ずるおそれがあるので使用しない。 4. 処理直後の灌水は効果を減ずることがあるので避ける。
	生 育 期 間	1. アファーム乳剤、エスマルク DF、プレオフロアブルの 1,000 倍液、アクセルフロアブル 1,000～2,000 倍液、アニキ乳剤、フェニックス顆粒水和剤の 2,000 倍液、グレーシア乳剤の 3,000 倍液、スピノエース顆粒水和剤、ディアナ SC の 5,000 倍液のいずれかを散布する。 2. コナガコンープラス(ローブ状製剤)を 10a 当り 20m、支柱を用いて非結球レタスの上に設置する。 3. コナガコンープラス(ツインチューブ製剤)を長さ 50～60cm 程度の棒の端に 2 本留めたものを 1 セットとし、10a 当り 50 セットを 4 m×5 m 間隔格子状に、ほ場内へ均等に配置する。	1. オオタバコガの産卵最盛期は 7～8 月末である。この時期に作付ける作型では薬剤抵抗性発達回避のため、ローテーションしながら発蛾盛期を中心に 1 週間間隔で 2～3 回散布する。 2. アニキ、アファーム、エスマルク、グレーシア、スピノエース、ディアナ、プレオ、フェニックス、は蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。 3. プレオの使用はリーフレタスに限る。 4. 性フェロモン剤に関する注意事項 (1) フェロモントラップのデータを参考に 7 月上旬中旬に設置する。 (2) 10ha 以上の面積で共同利用する。 (3) コナガコンープラス(ツインチューブ製剤のみ)はヨトウガにも登録がある。 (4) 多発時は殺虫剤を散布する。

病害虫名	防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
オオタバコガ タマナギンウワバ	生育期間	1. コンフューザーVを長さ50～60cm程度の棒の端に4本留めたものを1セットとし、10a当り25セットを6m×7m間隔格子状に、ほ場内へ均等に配置する。	1. オオタバコガ対象の場合、第1世代成虫発生初期(概ね7月上旬～中旬頃)に設置する。 2. タマナギンウワバ対象の場合、越冬世代成虫発生期(概ね4月下旬頃)に設置する。 3. 10ha以上の面積で共同利用する。 4. 本剤の対象害虫はオオタバコガ、タマナギンウワバ、イラクサギンウワバ、ヨトウガ、シロイチモジヨトウ、ハスモンヨトウであり、これら以外の害虫には効果がないので発生が認められたら殺虫剤で防除する。 5. 多発時は殺虫剤を散布する。
アザミウマ類	生育期間	1. リーフガード顆粒水和剤1,500倍液、グレーシア乳剤2,000倍液、ディアナSC5,000倍液のいずれかを散布する。	1. グレーシア、ディアナ、リーフガードは蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。
アブラムシ類	定植当日	1. アクタラ粒剤5又はモスピラン粒剤を1株当たり0.5g株元散布する。 2. ジノテフラン(アルバリン、スタークル)顆粒水溶剤50～100倍液、ヨーバルフロアブル200倍液のいずれかを、セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊当たり500ml灌注する。	1. セル成型苗で使用する場合は薬害を生じやすいので、定植当日に処理する。 2. アクタラ、モスピランは規定量を均一に散布し、葉についた粒剤を培土上に軽く払い落とした後、粒剤が育苗箱の外に流れ落ちない程度に軽く散水する。 3. 処理直後の灌水は、ジノテフランの効果を減ずることがあるので避ける。 4. ジノテフラン、モスピラン、ヨーバルは蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。
	生育期間	1. アグロスリン乳剤、ウララDF、トランスフォームフロアブルの2,000倍液、アドマイヤーフロアブル、コルト顆粒水和剤、マブリック水和剤20、モスピラン顆粒水溶剤、モベントフロアブルの4,000倍液のいずれかを散布する。	1. 発生初期に散布する。 2. アグロスリン、マブリックは蚕毒及び魚毒に、アドマイヤー、モスピランは蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。 3. モベントは不稔などの薬害のおそれがあるため、水稻にかからないよう注意する。
ナモグリバエ (ハモグリバエ類)	は種前	1. アクタラ粒剤5を培土10当り15gの割合で混和し、は種する。	1. 処理量を厳守し、薬剤を培土に均一に混和する。 2. 過度の乾燥後に灌水するなど薬剤が急激に吸収されるような条件では、薬害を生ずる恐れがあるので、十分に注意する。
	定植前日～当日	1. アクタラ粒剤5、モスピラン粒剤を1株当たり0.5g株元散布する。 2. ジノテフラン(アルバリン、スタークル)顆粒水溶剤50～100倍液、スピノエース顆粒水和剤500倍液のいずれかを、セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊当たり500ml灌注する。	1. セル成型苗で使用する場合は薬害を生じやすいので、定植当日に処理する。 2. 規定量を均一に散布し、葉についた粒剤を培土上に軽く払い落とした後、粒剤が育苗箱の外に流れ落ちない程度に軽く散水する。 3. 定植後、干ばつ状態が続く場合や乾

病害虫名	防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
ナモグリバエ (ハモグリバエ類)	育苗期後半 ～定植当日	1. ヨーバルフロアブル 200 倍液、又はベリマーク S C の 400 倍液をセル成型育苗トレイ 1 箱またはペーパーポット 1 冊当り 500 ml 灌注する。	<p>乾燥時にマルチ被覆をした場合は効果が劣ることがあるので、灌水を実施すると効果が安定する。</p> <p>4. 処理直前、直後の灌水は、ジノテフラン、スピノエース、ベリマークの効果を減ずることがあるので避ける。</p> <p>5. モスピラン、ジノテフラン、スピノエース、ヨーバル、ベリマークは蚕毒に特に注意する（特別指導事項参照）。</p>
	定 植 時	1. プレバソフロアブル5の 100 倍液、ジュリボフロアブル 200 倍液のいずれかを、セル成型育苗トレイ 1 箱またはペーパーポット 1 冊当り 500ml 灌注する。	<p>1. プレバソン、ジノテフラン、ジュリボは蚕毒に特に注意する（特別指導事項参照）。</p> <p>2. 軟弱徒長苗では薬害を生じる恐れがあるので使用しない。</p> <p>3. 処理直後の灌水は効果を減ずることがあるので避ける。</p>
	生 育 期 間	1. プレオフロアブル 1,000 倍液、パダン S G 水溶剤 1,500 倍液、グレーシア乳剤 3,000 倍液のいずれかを散布する。	<p>1. 発生の恐れのある作期では、殺虫剤の定植期土壌処理と組み合わせることにより、高い防除効果を得ることができる。</p> <p>2. グレーシア、パダン、プレオは蚕毒に特に注意する（特別指導事項参照）。</p>